No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	男 40代	左下顎骨嚢胞, 埋伏智歯,根尖 性歯周炎(脂肪 肝)	1.2~5% 1日間	横紋筋融解症,高ミオグロビン血症,急性腎不全 投与日 左下顎骨嚢胞,埋伏智歯,根尖性歯周炎のため手術を 施行した。 麻酔前投薬として硫酸アトロピン,塩酸ヒドロキシジン, 塩酸ロキサチジンアセタートを投与した。麻酔はプロポ フォール,亜酸化窒素,塩化スキサメトニウム,本剤で 導入し,亜酸化窒素,本剤,塩酸ブプレノルフィンで維 持した。麻酔時間は3時間16分,手術時間は2時間53 分であった。手術直後より血尿がみられた。 終了1日後 AST(GOT)506IU/L,ALT(GPT)125IU/L, LDH3992IU/Lであった。 終了3日後 AST(GOT)696IU/L,ALT(GPT)235IU/L, LDH3019IU/L,クレアチニン2.2mg/dLであったため,電 解質液を1000mL/日,フロセミド1/2アンブルを持続静 注した。 終了4日後 AST(GOT)460IU/L,ALT(GPT)241IU/L, LDH1065IU/L,クレアチニン2.2mg/dL,CK(CPK) 35440IU/Lであったため,電解質液,フロセミドを継続投 与した。X線上,心肥大,胸水がみられた。 終了5日後 AST(GOT)243IU/L,ALT(GPT)220IU/L, LDH558IU/L,クレアチニン2.5mg/dL,CK(CPK) 11290IU/Lであり,引き続き電解質液,フロセミドを投与 した。また,人工透析を開始した。	企業報告

臨床検査値

	投与前	終了 1日後	終了 3日後	終了 4日後	終了 5日後	終了 6日後	終了 7日後	終了 10日後	終了 14日後
AST(GOT) (IU/L)	26	506	696	460	243	100	54	25	22
ALT(GPT) (IU/L)	61	125	235	241	220	170	159	91	54
LDH(IU/L)	212	3992	3019	1065	558	366	422	365	347
CK(CPK) (IU/L)	98			35440	11290	3871	1629	413	138
クレアチニン(mg/dL)	0.7	1.5	2.2	2.2	2.5	1.8	2.0	2.0	2.2
BUN(mg/dL)	12	26	36	36	39	24	28	27	27

併用薬:亜酸化窒素,塩化スキサメトニウム,硫酸アトロピン,塩酸ヒドロキシジン,塩酸ロキサチジンアセタート,プロポ
 フォール,塩酸ブプレノルフィン,塩酸エフェドリン,ホスホマイシンナトリウム,フルルビプロフェンアキセチル,カルバゾク
 ロムスルホン酸ナトリウム,トラネキサム酸

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
2	男 60代	1回目 腹部大動脈閉塞 症 (なし) 2回目 下腸間膜動脈閉 塞症 (なし)	1回目 1.5～3% 1日間 2回目 1.5～2% 1日間	肝機能障害 1回目の手術 麻酔前投薬として硫酸アトロピン0.5mg, 塩酸ヒドロキシジン50mgを筋注した。麻酔導入はチオペンタールナトリウム300mg, 塩化スキサメトニウム60mgにて挿管を行い, 亜酸化窒素50%, 酸素50%, 本剤1.5～3%で維持した。術中のバイタルは心拍数60～100回/分, 血圧100～150/50～80mmHgと安定していた。帰室後, 創部感染予防のためフロモキシセフナトリウム4g/日と点滴投与した。 2回目の手術 前回の手術2日後に筋性防御を伴う激しい腹痛が出現したため, 下腸間膜動脈閉塞症を疑い緊急手術を施行した。麻酔導入はチオペンタールナトリウム150mg, 臭化ベクロニウム7mgにて挿管を行い, 亜酸化窒素50%, 酸素50%, 本剤1.5～2%で維持した。 終了1日後 体温37.7 に上昇するとともに肝機能検査値(AST(GOT)64IU/L, ALT(GPT)58IU/L)の上昇も認められた。 終了2日後 体温38.0 に上昇し, AST(GOT) 4242IU/L, ALT(GPT)3699IU/Lとなった。 終了20日後 AST(GOT)17IU/L, ALT(GPT)30IU/Lと軽快した。 DLST: 本剤(+), フロモキシセフナトリウム(+)	企業報告

臨床検査値

	投与前	2回目の手術 後	終了2日後	終了9日後	終了20日後
AST(GOT) (IU/L)	13	41	4242	33	17
ALT(GPT) (IU/L)	13	17	3699	362	30
AI-P (IU/L)	65	61	47	83	95
LDH (IU/L)	140	349	1381	276	236
総ビリルビン (mg/dL)	0.5	0.9	0.5	1.1	0.7

併用薬: 硫酸アトロピン, 塩酸ヒドロキシジン, チオペンタールナトリウム, 亜酸化窒素, 臭化ベクロニウム, フロモキシセフナトリウム

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
3	男 10代	慢性腎不全 (Pierre-Robin症 候群, 多発奇形, 不完全右脚ブロッ ク)	3% 1日間	完全房室ブロック 既往歴: 心室中隔欠損症, 完全房室ブロック 投 与 日 慢性腎不全のためにCAPDカテーテル留置術を施行し た。術前検査では心電図異常は認められなかった。 麻酔導入は酸素60%, 亜酸化窒素40%, 本剤3%で行 った。本剤吸入5分後に血圧が180/100mmHgから 115/60mmHgに低下するとともに, 心電図上, 完全房室 ブロックとなり, 心拍数が80回/分から40回/分の徐脈と なった。直ちに, 点滴を確保し, 硫酸アトロピン総量 0.2mg, 塩酸エフェドリン4mgを静注したが改善せず, 本 剤の投与を中止し, 100%酸素吸入と臭化ベクロニウム 1.5mgで気管内挿管後, 正常洞調律に戻った。	企業報告
併用薬: 亜酸化窒素					